

令和5(2023)年度宇都宮南高等学校 学校自己評価・学校関係者評価表

本年度重点目標		(1)主体性の育成	(2)確かな学力の育成	(3)内外に開かれた教育環境（働きやすい職場環境を含む）の整備
		① 自己有用感、自己指導能力（生徒自ら考え判断し、適切に行動できる力）を育む指導	① 丁寧で分かる授業の充実 ② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫・改善 ③ 教職員研修の充実 ④ 新旧2つの学習指導要領への対応と評価	① 働き方改革の推進 ② 事前、個別、事後を意識した危機管理の徹底 ③ 教職員の心と身体の健全化
		② 学校の特色化に資する文武両道の奨励		
1学年	具体目標	○ルールやマナーを遵守し、自立した生活を意識させる。 行動の結果を振り返り自己を成長させる力を身に付けさせる。 ○部活動等に意欲的に取り組ませる。学習との両立に対する目的意識を身に付けさせる。 ○自分の進路について考える力を身に付けさせる。	○課題に対して主体的に解決する力を身に付けさせる。 ○自主学習に向けたスケジュール管理の習慣を身に付けさせる。 ○外部機関等の講習や研修に参加する機会を設ける。 ○3観点評価を実施し、より良い評価方法を模索する。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○配慮を要する生徒を見落とさず、情報共有を徹底する。 ○互いに声をかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1) 生徒の行動に留意し、不適切な行動があればその場で指摘すると同時に、どのように行動すれば良かったのかを考えさせる。 2) 何を為すべきかを自らに考えさせ、主体的な活動や学びに結びついていくよう助言する。 3) 面談等を通して、情報収集の手段や方法について具体的なアドバイス心をかける。	1) 授業中等に自ら思考・判断する場面をつくり、協働して学習を進める時間を増やす。 2) スタディサプリを導入し、朝の学習だけではなく部活動との両立にも役立てていくことができるよう助言していく。 3) 講習や研修の資料等を必要に応じて回覧・掲示していく。 4) 教科間、学年間で情報共有を行いながら、より良い評価になるように試行錯誤を繰り返していく。	1) 分掌に偏りが無いかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。 2) 些細なことであっても抱えてしまうことが無いよう、学年会や担任打ち合わせなどで情報共有し対応を協議していく。 3) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。
	段階評価	B	B	A
	評価理由	1) 挨拶の励行や身だしなみなど、1年生のうちに身につけてもらいたい事柄について、学年で共通理解のもと、指導に当たることができた。 2) 学年集会等で、目標をもって主体的に学ぶことの大切さについて指導・助言を繰り返してきた。また白手帳を活用し、授業の振り返り記録を取らせることも試みた。主体的な活動に結びつくよう、今後も継続的な指導が必要である。 3) 各クラスとも積極的に面談の時間を活用することができたが、進路に対して「まだ先のこと」「何とかなる」という感覚を変化させていくために、まだまだ個別に対応することが必要だと思われる。	1) 新課程に対応し、各教科とも学び合いの場面が増えている。また、学業指導応援チーム派遣事業において外部講師からの助言をいただくこともでき、充実した1年となった。 2) スタディサプリを朝の学習に導入し、活用を意識づけることはできつつある。自習時間等にも活用する姿が見られるようになってきている。しかし、依然として生徒により活用状況に差があることが今後の課題である。 3) 学年間で回覧・掲示し、研修等への参加もあった。 4) 教科内でよく情報共有がなされている。特に国・数・英の連携が心強い。	1) 学年で協力し合い、且つ各自が係分担を適切にこなしていくことによって、効率よく諸行事に取り組むことができた。 2) 3) 学年会や担任打ち合わせ等でだけではなく、日常の空き時間を利用しながら情報を共有していくことができた。また、担任間でもアドバイスをし合うなど、関係性は良好であった。
	学校関係者段階評価	B、A、B、A、A		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 高校生としての自覚を持つように努力している。 [Bさん] 生徒が自ら考え行動できるよう、あいさつや身だしなみ、自主学習等の習慣づけに、積極的に取り組んでいることは評価できる。 [Cさん] 進路指導や学習指導において学年で取り組まれており、素晴らしいと感じます。特に学習面ではスタディサプリの導入、教科間の情報共有などが行われており、次年度以降も引き続き取り組んでもらいたいと思います。また、担任間の連携が良好であれば、学年のまとまりも強くなります。こちらも引き続き良好な関係性を維持してください。 [Dさん] 教職員の心と身体の健全化のために働き方改革の推進は最重要事項ではありますが、目標達成のため、担任の先生同士で連絡を密にし、お互いにアドバイスしあうなどきちんと対応できています。 [Eさん] 一学年時の時から面談で進路について積極的に考えることができるのがよい。		
2学年	具体目標	○協働的な活動を通して他者から認められ、他者の役に立っていると感じられる絆づくりを進める。また、自らの生活を客観的に見つめ直し自己管理できるようにさせる。 ○学校の諸活動に積極的に取り組ませ集団の一員として進んで貢献できる意識を確立させる。 ○自らの生き方を考え進路選択ができるようにさせる。	○主体的に問題解決に取り組む姿勢やそれに基づいた手立てを準備し「問題意識を生む」「問題意識をつなぐ」という視点を考え授業を行う。 ○基礎学力や応用力をつけるために主体的な学習を習慣づけ、進路への関心を高めさせる。 ○現代的な諸課題に対応するために、多様な教材・資料等を活用する。 ○大学入学共通テストに対応できる能力を促進させる。	○学年担任間での情報の共有を図る。 ○安全確保に万全を期したうえで自己ベストを目指す。
	具体方策	1) 生徒一人一人に活躍の場を設定し、役割を与え、それを果たした努力を承認する。また白手帳を利用し朝食、運動、睡眠などの生活習慣を把握し的確なアドバイスをする。 2) 部活動、生徒会、諸行事に主体的に参加させる。また、地域交流、国際交流活動に積極的な参加を促す。 3) 総合的な探究の時間や進路学習講座などを通し、進路に対する理解を深めさせる。	1) 学習内容に繋がる気付きや疑問を持たせる。また、それに対する考えを明確にし、詳しく表現させる。 2) Teamsや白手帳等を活用し目標設定と振り返りを実施させる。 3) Benesse等のシステムの活用により、多様な大学入試に対応できる能力を養う。 4) 全科目で定期考査において論理的思考力を問う問題を1問設定し、1年後の共通テストにつなげる。	1) 情報を共有し、風通しの良く、生徒を第一に考えた仕事ができるようにする。 2) 安全確保をしながら部活動、生徒会等の行事、及び国際交流や地域連携活動関係の行事へ積極的に参加させ、活動を通して自分の役割を認識し、コミュニケーション能力を伸長させる。
	段階評価	B	B	B
	評価理由	1) 生徒会や学級、各行事等での係活動を通して、生徒一人一人が目標を持って活動することができた。また、10分前登校の推奨をはじめとして、規則正しい生活を意識するようアドバイスを行った。 2) 部活動では高い目標に向かって努力をする生徒が多く見られた。また、球技大会や学校祭などでは生徒が自ら考え、工夫して活動する姿が見られた。 3) 進路講話や大学受験科目調べなどを通して進路への意識づけを行った。	1) ただ授業を聞くだけでなく、理解したことや疑問点などを言葉で伝える力を付けさせる授業を行い、生徒によっては教科担当に質問をするなど成果が現れている。 2) 進路実現に向けて定期テストや進研模試など、要素要素で目標設定とその振り返りを実施させ、次に繋げるアドバイスを行なった。クラスによっては白手帳を活用するケースもあったが、Teamsの活用については今後の課題である。 3) 新教育課程により大学の受験科目が変わる学年であり、まだ情報が少ない中ではあるが、入試対策として受験科目調べなどを行わせた。 4) 3観点評価を踏まえて、論理思考力を身につけさせる指導を行い、またその力を評価できる作問の工夫を行った。	1) 学年会や担任会できめ細やかに情報交換を行い、担任だけでなく学年団全員で生徒への指導にあたった。 2) 感染症対策や事故防止などの対策を講じながら各活動を行った。生徒たちは部活動や生徒会活動等に積極的に参加し、他者との関係の中で自分の役割を意識して活動することができた。
	学校関係者段階評価	B、A、B、A、A		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 目標等に向かって努力する生徒へのアドバイスや指導することができたことを評価します。 [Bさん] 本年度重点目標（1）主体性の育成における「10分前登校の推奨」や（2）確かな学力の育成における「理解したことや疑問点などを言葉で伝える力を身につける授業の実施」など、具体的な取組が行われている。 [Cさん] 新教育課程の初年度の学年であり、受験対策など難しい学年ではありますが、担任間の情報交換や連携を通して取り組まれていると感じます。また、TeamsだけでなくFormsなどを使い、生徒の現状をリアルタイムに認識する手立てなどを講じることで進路指導、学習指導、生活指導などのさらなる改善に努めてください。 [Dさん] きちんと問題意識を持ち、それらをつなぐということが実践できていると思います。最終目標設定を行い、各月要所にて立ち止まり、進捗状況を振り返りそれらに対しアドバイスをを行い、目標を達成できていると思います。 [Eさん] 担任だけでなく、学年団全員で指導というところがよい。		
3学年	具体目標	○学校行事等に全力で取り組ませる。 ○進路実現のために、実力をつけて進学、就職できるよう努力を継続させる。	○自ら思考・判断する場面をつくり、主体的に課題を解決する力を育成する。 ○充実した進路指導を行うために、新しい情報を生徒に提供出来るよう努力する。	○効率よく学年業務が行える様に、業務内容や方法の整備を行う。
	具体方策	1) 自ら為すべきことを常に見つけさせ、主体的に活動できるよう見守る。 2) 広い視野で進路情報を収集させる。1ランク上の目標を提示し、達成できるよう助言する。	1) 授業展開の中に、生徒が主体的、協働的に学習活動する時間を設ける。 2) 様々な大学等の説明会や研修に参加する機会を設ける。	1) 各系の業務が効率よく行えるように精選や見直しを行う。 2) teamsを活用し、業務の効率化を図る。
	段階評価	B	B	A
	評価理由	1)メリハリをつけて行事を全力で楽しむ姿が見られた。最後のマラソン大会も3年生が上位に名前を連ね、色んなことに意欲的に参加する姿が見られた。 2)面談を密におこない、保護者との連携を取りながら生徒が志望する進路実現を支援することができた。	1)主体的に学習する生徒は入学当初から比較すると格段に増えた。状況に応じた応用力を発揮できる生徒が増えてきてほしい。 2)外部機関等の説明会に積極的に参加し、担任間で共有することができた。また、その情報を生徒に還元もできた。	1)学年で協力し合い、精選を念頭におきながら各種行事に向かうことができた。特に副担のサポートが良好であり、支障なく実施できた。 2)Teamsでの情報共有ができ、生徒への連絡や授業配信も迅速にできた。

	学校関係者段階評価	B、B、B、A、A		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 生徒や先生方の努力を大いに評価します。 [Bさん] 各項目の記載内容が昨年度と同様であるため、（昨年度の取組の検証を踏まえた）今年度の新たな取組などが見られない。 [Cさん] 生徒・保護者と情報を密にし、Teamsなどを用いた情報共有など、きめ細やかな指導ができていますと感じます。また、学習面でも主体的な学習ができる生徒が増えていることも素晴らしいと感じます。引き続き、このような取組を続けてください。 [Dさん] 効率よく業務を遂行するためTeamsをうまく活用し、情報の共有、生徒への連絡配信も迅速に対応でき評価できます。 [Eさん] 行事を全力で楽しむことがとてもよい。		
教務部	具体目標	○国際理解教育や地域連携活動等、特色のある活動を推進する。	○生徒の適性・能力に応じた学習指導の充実にむけて学習環境を整える。	○業務の効率化にむけて業務内容や方法の整備を行う。
	具体方策	1) 学校行事を工夫する。 2) 学校HPを充実させ、学校の特色等について積極的に情報を発信する。	1) 教育課程が生徒の適性や進路希望に即しているかチェック・検討を継続する。 2) 研究授業を充実させる。 3) GIGAタブレットや校務支援システムの活用に関する校内研修を行う。	1) 各係の業務の進行を把握し、業務の検討・改善を行う。 2) 行事の精選・見直しを行う。 3) 校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。
	段階評価	B		B
	評価理由	1) 学校行事等のよりよい実施にむけて、日程・実施場所等の調整を行った。 2) HPに関しては、部活動内容の更新について部活動ごとに差はあったが、HP全体としての内容は充実していた。	1) 教育課程検討委員会を通して今年度入学生からの教育課程について見直しを行い、具体的な検討を実施した。 2) 研究授業を計画・実施し、充実した取り組みとなった。 3) 電波状況も改善され環境が整い、多くの授業でGIGAタブレットが使用されるようになった。活用方法等に関する研修を今後も継続して実施したほうがよい。(校務支援システムについての研修についても同様)	1) 業務の偏りが昨年よりなくなって取り組みやすくなった。 2) 朝の打ち合わせシート・テスト監督表など紙で出さず、Teamsを利用することで節約と効率化が図られている。 3) 朝の打ち合わせや企画委員会、職員会議の資料をデータで配信することで、業務が軽減できている。 4) 行事の精選や見直しについて検討を行った。その結果、必要な行事も多く大きな見直しにはいたらなかったが、行事の進行等を改善することで効率化を図れた。 5) 昨年度示された校務支援システムの管理・活用の指針をもとに校務支援システムの活用が軌道に乗り、それぞれ管理・活用する分掌の係において校務支援システムを活用し、業務の効率化が図られた。
	学校関係者段階評価	B、B、B、A、B		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 目標達成のために努力していることを評価します。 [Bさん] 「地域連携活動」については、生徒の活動の場（作品展示や研究成果の発表等）として、本館を利用していただいている。 [Cさん] HPによる情報発信は、学校のことを周知する手段として有効です。しかし、閲覧する人が分かりやすいということも大切です。最新の情報だけでなく、画面のレイアウトなども含めて更新をしていってください。また、会議等のペーパーレス化やスケジュール管理など、校務支援システムを引き続き上手に使って、業務負担の軽減に努めてください。 [Dさん] Teamsを活用することで、節約と効率化が図られている。紙面の資料をデータ配信することで業務の軽減、産業廃棄物の削減ができています。今後校務支援システムの積極的な活用により、より一層業務の効率化が図られていくと思います。 [Eさん] タブレットの環境が整い、多くの授業で使用できることがよい。		
渉外部	具体目標	○学校と家庭、地域との連携を図り、生徒の社会性を育む教育活動を推進する。 ○保護者間の連携を深め、学年部会、各種専門部会、支部会活動の充実を図る。 ○PTA、同窓会、各種団体との連携を図り、円滑に事業を実施し、さらなる学校発展に寄与する。		○PTA役員保護者の負担を考え、運営委員会や専門部会を精選し、来校する回数を減らせるよう努力する。 ○PTA生活指導部保護者協力の登校時の交通立哨指導により、自転車通学の生徒の安全確保の一助とする。
	具体方策	1) PTA活動について、執行部役員、学年委員、支部会、部活動理事などが中心となり、学校と家庭の連携を密にして、充実した教育活動を推進する。 2) 同窓会活動について、同窓会理事と連絡を密にしながら、連携を取り、活動を円滑に行えるように努める。		1) PTA会長・副会長及び執行部役員と綿密にコンタクトをとり、意見を伺い、決定していく。 2) 本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。
	段階評価	B		
	評価理由	1) 2) 今年度は4年ぶりにマラソン大会での豚汁づくりを実施し、保護者には本当によく協力していただき、その味は生徒に好評であった。広報部の「みなみ」も年2回の発行ができ、また、研修部の校内研修も15名の参加者があり充実した。同窓会に関しては、年2回の理事会と7月の総会を実施でき、宇南高同窓生の結束を強めた。		1) 2回目と3回目のPTA運営委員会では、新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりに実施するマラソン大会での豚汁づくりに関して、緊張感とともに綿密な話し合いが行われた。 2) 例年どおり、生活指導部の保護者の方々をはじめ、マラソン大会では支部会・厚生部・総務部の方々によくご協力いただき、その計画を完遂できた。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、A		
	学校関係者評価理由	[Aさん] 努力して活動されていたことに感心しました。 [Bさん] コロナ禍による制限が解除となり、各団体との連携、集まりなどが活発に行われている。 [Cさん] コロナの影響で行えなかったPTAとの交流や行事が少しずつできるようになってきてよかったです。PTAや同窓会などの交流ができるようになったからこそ、学校の変化などを周知し、理解を求めながらより良い学校環境づくりに努めてください。 [Dさん] 年々PTAや同窓会、各種団体との連携が強くなってきていると思います。一緒に活動する中で、生徒たちのために先生方を通じて今の社会経済の中で社会ではどのような職業があるか、またそのような分野の仕事に就くためどのような勉強が必要か？どのような資格が必要か？学生のうちに少しでも知ってほしいと思います。 [Eさん] 保護者達は経験の無い豚汁づくりだったが、実施でき好評だったようなのでよかった。		
健康指導部	具体目標	○健康の保持増進を図る。 ○気力・体力の向上を図る。	○校舎内外の美化に努め、公共物の愛護の心を養成する。 ○緑化の推進にあたる。	○防災・安全対策を適切に実施する。
	具体方策	1) 保健室運営方針に基づき、保健計画を適正に実施する。 2) 「保健みなみ」を活用し、保健委員の活動を指導する。 3) クラス出席率99%以上を目標とし、教育相談と連携を図りながら養護指導を行う。 4) 体育活動を通し体力の向上を図る。 5) 体育施設の整備・用具の充実を図る。 6) 校内マラソン大会を成功させるよう事前準備を十分に行う。	1) 全職員が清掃監督に当たり清掃美化を徹底する。 2) 校内美化の意識を養う。 3) 花壇整備など、緑化活動を積極的にすすめる。 4) 勤労体験の場をつくり、奉仕の精神を涵養する。	1) 消防・防災・避難計画により安全・迅速に行動するように努める。 2) 施設・設備の定期的な点検を実施し、事故防止に努める。
	段階評価	B		B
	評価理由	1) 感染症や体調不良者における生活習慣の見直しや、周りへの影響を適切に判断できる生徒が多い一方、できていない生徒もあり、自己判断に委ねる状況下における保健指導及び集団指導の充実を検討する必要がある。 2) 委員会活動として、感染症の予防と緊急時の危機管理意識の向上に焦点を絞り、積極的な生徒参加の保健指導の充実を図ることができた。 3) 教育相談関係の保健室利用生徒については、担任を軸として、管理職も含めた円滑な連携が図ることができた。 4) 普段からの指導により体力の向上が図れた。 5) トレーニング場の点検整備を行っていきたい。 6) 様々な協力があり今年度も実施できたが、交通整理等の警察の協力がなく一部走路を変更して実施した。生徒の安全確保の観点から公道での実施が難しくなっている。開催場所も含め検討する必要がある。	1) 2) 清掃時間は確保されてはいるものの、清掃が徹底されていない箇所あり、校内美化の意識を高める必要がある。 3) 募金からの助成金により、昨年よりも多くの花壇作業を行えた。 4) 今年度は市から案内がなかったため実施しなかった。	1) 事前の指導により迅速に行動できていたが、生徒にいかにも真剣みをもって臨ませるかが今後の課題。 2)定期的な点検、修繕も早く事故防止に速やかに対応していただいた。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、B		

		〔Aさん〕アフターコロナの生活になりましたが、引き続き心身ともに健やかな生活ができるように希望します。 〔Bさん〕施設・設備の改修（修繕）が適切に実施されることは、生徒の安全確保や防災などの面から、非常に重要である。 〔Cさん〕コロナだけでなくインフルエンザなどの感染症の経験を踏まえ、生徒の健康管理や体力づくりへの取り組みを引き続き行ってください。また、校内美化や施設・設備の点検についても計画的に実施してってください。 〔Dさん〕生徒の健康は非常に重要です。社会でも国や県でもが各企業に対し健康経営の認定を行っているところです。そのような社会情勢の中、校内マラソン大会は非常に重要な行事であります。生徒たちの安全の面でも警察の協力は絶対に必要であると考えますが、地元の県議会議員に話をして対応できませんか？ 〔Eさん〕指導により体力の向上が図れていてよい。	
学習指導部	具体目標	○主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○自己の将来につながる課題を見つけて解決を図る探究的な学習を実践する。	○授業改善、学習評価の工夫（新旧学習指導要領に基づいて）に取り組む。 ○家庭学習の習慣化と学習方法の確立を図る。 ○各学年、各教科との情報共有に努め、共通認識の下、学習指導部の業務の効率化を図る。 ○地域とのかかわりを積極的につくり、その連携を強化する。
	具体方策	1) 主体的な学習態度の育成 ①10分前登校と朝学の奨励 ②「学習と生活の記録」ノート（白手帳）の有効活用 ③教科係やホームルーム委員長などのリーダーシップの育成 ④人権教育・主権者教育・福祉教育・国際理解教育・地域連携活動・図書活動等の教育活動を通した学習意欲の喚起 2) 探究的な学習の実践と充実 ①総合的な探究の時間における自己の将来を見据えたテーマ選択、探究活動の実践 ②各教科における探究的な学習姿勢の育成	1) 授業改善、学習評価の工夫 ①生徒がタブレットを使用する授業の実践 ②学習評価の工夫 ③授業見学の励行と研究授業、授業研究会、教員研修会の開催 2) 家庭学習の習慣化 ①「学習と生活の記録」ノートや各種調査の有効活用 ②適時・適量な課題・小テストの実施 ③スタディサポートの有効活用 ④授業及び定期試験を通じた学習到達度の把握と個別対応 ⑤成績不振者への支援（試験前、その他） 1) 情報共有による業務の効率化 ①各担当、各学年、各教科の連携による指導の充実および業務の効率化 ②年間学習指導計画の共有と教科横断型授業の実施による生徒の幅広い知識習得への工夫 2) 対応の迅速化 ①関係各部との情報共有・連携強化による学習不振、学校不適応生徒に対する迅速かつ適切な対応 3) 地域への積極的な働きかけ
	段階評価	B	B
	評価理由	1) 主体的な学習態度の育成 タブレットを使用して自主学習を行ったり、白手帳を用いて振り返りをさせたりすることで生徒の主体性を高めることができた。また、各種講演会の実施や地域と連携した活動等の再開が生徒の興味関心の幅を広げることになり、学ぶ意欲の喚起につながることができた。 2) 探究的な学習の実践と充実 「総合的な探究の時間」はもとより、各教科において探究的な学習活動を取り入れた授業が多く展開され、生徒の主体的に学習に取り組む姿勢を高めることができた。ただし、時間が不足して実施できなかった内容もあるので、来年度の計画に生かしたい。	1) 授業改善、学習評価の工夫 授業時のタブレット使用頻度が高くなり、生徒が自ら活用している様子が見られた。今後は手軽に補完的に使うだけでなく、より発展的な活用を考えさせるような指導が必要である。学習評価にはさらに工夫をしていく。教員に対する研修会は開催できなかった。教員が抱える課題に応じた有意義な機会を作るために、各方面からの意見を伺う。Teams活用の校内研修なども有効と思われる。 2) 家庭学習の習慣化 家庭学習は生徒の個人差が大きく、改善に向けては学年や特活部などとの連携も必要である。各教科では様々な指導に工夫をしているが、生徒の実態との検証が必要である。また、今後、授業に集中して取り組む姿勢をより重視した指導を各教科等と検討したい。 1) 情報共有による業務の効率化 2) 対応の迅速化 各担当等の連携・協力により、業務の効率化や生徒への対応の迅速化を図ることができた。また、OA係が校務支援システムにおける成績処理等のマニュアルを作成してくれたおかげで、業務が分かりやすくなったが、職員への周知が徹底できていない部分があり配慮が必要である。 3) 地域への積極的な働きかけ コロナ禍の影響がまだ残っているが、徐々に生徒の活動できる機会が増えているので、地域との連携を強化できるよう努めていきたい。
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、A	
	学校関係者評価理由	〔Aさん〕工夫されて指導していることを評価します。 〔Bさん〕「家庭学習」に対するアンケート結果では、生徒、保護者ともに昨年度より数値が低下しているが、家庭での行動まで学校側が対応することには、限界があるのではないかと考える。 〔Cさん〕タブレットを上手に活用しながら学習態度を育成するなど成果が見られてきておりますので、継続した取り組みを行ってください。また、学校の授業と家庭学習を融合した授業づくりなどを行えば、授業時間不足などの改善につながっていくと思います。具体的には、指導者が必要な活動は学校、学んだことを使って考えたり、調べたりなどの熟考する時間が必要な活動は家庭学習などに分けて考えるなどとなります。 〔Dさん〕各担当の業務は、はじめは大変でもマニュアル化すればお互いに業務の削減、迅速化など大変有効であります。ほかの職員の先生方にもやりたいやりたくないでなくきちんとやっていただきたいと思います。 〔Eさん〕タブレットを活用し生徒自らが学習できていることがよい。	
進路指導部	具体目標	○生徒自ら進路を考え決定できるよう、きめ細かな指導及び情報提供を行う。 ○生徒の個に応じた強みの養成を意識させ、校内外の諸活動への参加を促す。 ○諸活動での実績を生徒自ら評価し、積極的に発信できる表現力を涵養する。	○進路実現に必要な「確かな学力」を身につける指導を行う。 ○ライフデザインやキャリアデザインの観点から進路を考えるよう喚起する。 ○新課程入試に関する情報収集を収集し、校内での共有を図る。 ○体系的な指導体制を再検討し、業務の効率化を進める。 ○生徒がベストの状態で活動できるよう、安全確保に万全を期す。
	具体方策	1) 授業、個人面談、学年集会等を通して、進学・就職の動向の情報提供するとともに、生徒の意思を確認しながら適切な指導を行う。 2) 生徒自らのアピールポイントを明確にすべく、部活動、生徒会活動のほか、ボランティア活動、学校説明会等への積極参加を促す。 3) 進学、就職に関する情報を適宜保護者等にも提供できるよう努める。	1) 学習内容や日常生活の中の興味・関心を高め、生徒が探究活動によって社会で活躍できる可能性を広げるよう支援する。 2) 入学試験や入社試験の傾向を的確に捉え、生徒に求められている力が身につくよう授業内容や学習形態、発問等を工夫する。 3) 国公立大学、私立大学・短大による新課程入試の相違点を整理し、教科打合せ等で対応を検討する。 1) 進路行事について目的と効果を検証していくとともに、効率的に運営・進行できるよう改善していく。 2) 引き続き、生徒が受験や学校見学に参加する際の安全面や感染防止等の指導を継続する。
	段階評価	B	B
	評価理由	1) ホームルームでの指導および活動への参加促進が適宜行われている。 2) 生徒自ら、志望理由や活動報告など表現できるよう、的確な指導ができた。生徒による温度差もみられるため、今後も生徒が積極的に行動できるよう呼びかけを続けたい。 3) 情報の掲示が充実してきている。今後も提供を続けたい。	1) 進路指導部として、総合的な探究の時間との関わりが小さい。探究活動が生徒の進路実現に結びつくことも想定できるので、今後各部署との調整が必要である。 2) 各授業で思考力、表現力を伸ばす活動ができている。 3) 新課程入試に関する情報提供がやや不足していた。学年・教科との共有に関して、さらなる取組が必要である。 1) 進路行事に関する目的は概ね共有できているが、効果の検証が十分ではない。新課程への切り替えが節目となるので、見直し等も含め検討を進めたい。 2) アフターコロナとなり、引き続き健康管理や事故防止を促すことができた。
	学校関係者段階評価	B、A、B、B、A	
	学校関係者評価理由	〔Aさん〕熱心に取り組んでいることを評価します。 〔Bさん〕「進路指導」に対するアンケート結果では、生徒、保護者ともに高い評価を受けており、適切に行われている。 〔Cさん〕多くの学生が志望する進路に行けるように多くの工夫や取組がなされており素晴らしいです。特に、書く授業で思考力、表現力を伸ばすための取組は重要なことだと思います。引き続き、生徒の長所を伸ばし、生徒に寄り添う進路指導に取り組んでください。 〔Dさん〕生徒自ら進路を考え決定できるよう、生徒自ら、志望理由や活動報告など表現できるよう、的確な指導ができています。 〔Eさん〕進路の実現に向けて表現できるよう指導されていてよい。	
	具体目標	○自己指導能力を育成し自信と誇りを持てる生徒の育成 ○教育相談活動などの一層の活性化	○いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備 ○生徒に応じた生徒指導諸問題への対処

生徒指導部	具体方策	1) 自己指導能力を高め自信と誇りを持てる生徒の育成 ①凡事徹底と基本的生活習慣を確立する。 ・制服を正しく着用させ学校への帰属意識を高める。 ・遅刻指導と「チャイムtoチャイム」を徹底する。 ・ルール遵守や挨拶、礼儀等本校の良き伝統を定着させる。 ②自己管理能力を育成する。 ・自ら交通法規を遵守する態度を養い、苦情を減少させるとともに交通事故の減少傾向を維持する。 ・貴重品管理の指導を継続し、盗難を未然に防止する。 ・整理整頓を心掛けさせ、遺失物を減少させる。 2) 教育相談活動などの一層の活性化 ①SCや「学業支援応援チーム派遣事業」を活用した特別支援体制を充実させる。 ②各クラスの「生徒の情報調査」等から、不登校生徒などの早期発見・早期対応に努める。	1) いじめアンケートとクラスの融和 ① 改訂「いじめ防止基本方針行動計画」を職員間で共有、徹底する。 ②いじめ情報共有シートを効果的に活用する。 2) 規範意識や人権意識の高揚、自己有用感の育成 ①日々の生活において、一般社会に通用する規範意識や礼儀作法やマナーなどを身につけさせる。	1) 生徒に応じた生徒指導諸問題への対処 ①各係の円滑な職務の遂行と、問題発生時に迅速かつ柔軟に対応できる協力体制を構築する。 ②日常からの各部・各学年とのコミュニケーションを通じ、生徒に応じた指導となるよう諸問題に対処する。	
	段階評価	B	B	B	
	評価理由	1) 基本的生活習慣については、衣替えの時期に制服の正しい着用について指導したが、特に登下校時のブレザー着用を徹底できなかった。欠席・遅刻する生徒がやや増加傾向だが、あいさつや礼儀はしっかり行える生徒が多く本校の伝統としたい。交通に関する苦情は年間10件程寄せられ、通学時の交通事故も10数件発生し、どちらも昨年並みの件数となった。遺失物が多く、スマートフォンの拾得も数件あった。 2) 1学年を対象に学業指導応援チーム派遣事業を活用し、集団づくり、授業づくりの学業生活を援助できた。毎月の生徒の情報調査で欠席の増加傾向の生徒を早期に発見することができた。今後はその対応についても工夫していきたい。	1) 毎月のいじめアンケートの実施することはできたが、各クラスで回答を集めることに苦心した。オンラインでの回答方法やその集計システムの改善が今後必要である。また、いじめ情報共有シートの活用は十分に活用されていない点もあり、来年度から教職員への周知を徹底したい。 2) 校内での教員が目の届く範囲でのマナーは良いが、放課後規則外のスマートフォン使用や、校外での問題行動等も発生した。学校生活を中心として主体的に日々の生活を送り、より規範意識を高めさせ、自己有用感の醸成を図れるよう指導していきたい。	1) 生徒指導上の諸問題に対して迅速に委員会を開催し、各学年からの協力もあって、生徒の状況に応じた指導を適切に行うことができた。しかし、生徒指導についての見解の相違などの意見も少数あり、今後も誤解を受けないよう生徒の人権に配慮しながら生徒の指導に当たっていきたい。	
	学校関係者段階評価	B、A、B、B、B			
	学校関係者評価理由	[Aさん] 基本的生活習慣・自己管理能力・いじめに関して継続して指導を希望します。 [Bさん] 「携帯（スマホ）の使用に対する学校の指導」に対するアンケート結果は、生徒、保護者ともに高い評価を受けており、適切に行われている。 [Cさん] 生活習慣の乱れは、多くの面に影響する可能性があります。一長一短にはいかない内容です。継続的な指導をお願いいたします。また、いじめに関するアンケートなどの取り組みを通して、いじめの撲滅、早期発見、早期対応などにも努めてください。最後に、スマートフォンなどの利用については、その都度、「なぜそのような行動をしたのか」「どうすべきだったのか」を生徒たちで話し合わせながら少しずつ改善に努めてください。 [Dさん] 今は時代が時代ですから、生徒指導の先生方のご努力は大変だと思います。人権に配慮しつつ、かつ教育的愛情も不足しない指導を展開する先生方のご苦労がしのべれます。 [Eさん] しっかり挨拶が行われている。			
特活部	具体目標	○生徒会活動の充実を図る。 ○部活動の一層の充実を図るとともに適切な運営を検討する。 ○ホームルーム活動の充実を図る。	○国際理解教育・インターアクト、地域連携、福祉教育との連携を図る。	○多くの行事を実施可能にする危機管理の徹底と学校行事の変更に対する臨機応変な対応を図る。	
	具体方策	1) 生徒会役員をはじめホームルーム役員等のリーダーシップをとれる生徒の育成を図る。 2) 諸行事では生徒の自主的・創造的活動の活性化を目指し、積極的に緻密な企画・運営がなされるよう指導する。 3) 部活動への参加を奨励し、個々の特性・能力の伸長を図る。 4) 礼儀正しい人間を育成する。単に技能だけを高めるのではなく、お互い協力し助け合う等、心豊かな生徒を育てる。 5) 学習状況、通学状況、健康管理等、関係職員との連携を密にし、個々の生徒への共通理解の深化を図る。 6) 部活動の在り方、活動時間や練習内容など、他校の模範となる部活動運営計画を構築する。 7) 十分な時間数を確保し、綿密な年間計画、事前準備等により円滑な運営が行われるよう努める。 8) 学校生活の基盤としての場であるので、クラス内の融和を図るとともに、自主的・自律的な態度を育てる。	1) 学習指導部の国際理解教育・インターアクト係、地域連携・福祉教育係と生徒会が連携を図れるように留意する。	1) 新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策を速やかに実施し、変更等に柔軟に対応しながら、行事の実施を目指す。 2) 最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く。	
	段階評価	A	B	B	
	評価理由	1) 2) 7) 8)学校行事、生徒会活動、委員会活動、HR活動をコロナ禍前と同様に工夫して実施できた。特に、生徒会担当教諭の尽力で、球技大会や学校祭などの行事をより活発に実施できた。また、生徒会による挨拶運動など、新しい試みも実施できた。 3) 4)部活動の制限もなく、活発な部活動を実施できた。 5) 6)ケガ、熱中症などの予防を顧問に呼びかけ、部活動を安全に実施できた。	1) 国際理解教育、地域連携行事など、実施できた。来年度は、留学生受け入れ予定で、より国際交流できることが期待される。	1) 全ての行事を、コロナ禍前と同様に実施できた。実施後、感染症が増えたこともあり、今後も感染症対策をしながら、実施をすべきである。 2) 部活動の顧問会議では、ケガや熱中症の予防だけでなく、ケガの応急処置、AEDの使用や救急車の要請なども周知すべきであった。また、学校祭の通常通りの実施で、ステージ発表の指示が通らなかった生徒がいて、危険防止の周知を事前にもっと強化すべきであった。	
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、A			
	学校関係者評価理由	[Aさん] アフターコロナの生活になり活発な活動ができたことを評価します。今後、反省点を強化することを希望します。 [Bさん] 部活動は、生徒の心身の成長にとって重要なものであり、引き続き活発に行われることを希望する。また、次年度実施予定の留学生受入が、国際交流の充実に繋がることを期待する。 [Cさん] 生徒会や球技大会など、自粛していた行事ができるだけでなく、生徒による挨拶運動などの生徒が主体的に考えた取組なども実施できたことはすばらしいです。また、国際理解協力や地域連携行事などの継続的な実施、次年度の留学生の受け入れなどは生徒の意識を変える重要な取組ですので、推進してってください。さらに、部活動についても多くの優秀な成績をあげることができ、顧問の先生方の努力の結果であると考えます。一方で、顧問会議で話題になったケガや病気などへの対応や危険防止の周知などは重要なことですので、ぜひ強化してってください。 [Dさん] 先生方の指導により、リーダーの育成に加えて、個々の特性を生かした自主的・創造的活動の活性化、積極的な活動がなされていると思います。 [Eさん] 球技大会や部活動等が制限なく実施されていてよい。			
事務部	具体目標	○施設・設備の充実を図る。		○不具合施設・設備に迅速に対応する。	
	具体方策	1) 適時適切な施設整備計画を作成し、効率的な予算執行に努め、施設・設備の充実を図っていく。 2) 各部との連携を密にし、整備要望の把握に努める。		1) 日常の巡回巡視において、不具合箇所の早期発見に努める。 2) 特に危険箇所については、修繕対応（予算要求）を迅速に行い、生徒・教職員の安全を担保する。	
	段階評価	B		B	
	評価理由	1) 施設整備計画に基づいた管理特別教室棟の外壁工事が今年度完了し、北側サッシからの雨の差し込みが解消された。今後とも施設・設備等の充実に向けて、計画策定・要望していきたい。 2) 学校医（産業医）の巡回指導や学校評議員の意見、各部との連携により、施設面での改善を図っている。		1) 予算配分が少ない中、フェンス塗装を公仕を中心に直営で実施した。 2) 危険箇所等が発覚した際には、随時の予算要求・修繕を実施している。	
	学校関係者段階評価	B、B、B、B、A			
学校関係者評価理由	[Aさん] 少ない予算の中でやりくりをしていることに感じしました。 [Bさん] 施設の老朽化が進行し、修繕工事の必要箇所は年々増えていく中で、予算獲得のため、的確な理由付けや優先順位などの取組がますます重要になってくる。 [Cさん] 学校の施設・設備の充実は、生徒の安全な学習環境を維持するために重要です。引き続き巡回巡視や不具合箇所の早期発見に努め、計画的な対応をお願いいたします。 [Dさん] 日々活動する生徒たちの施設、日々の計画が綿密になされていると思います。また予算がない中、直営で塗装を施工するなど工夫が素晴らしいと思います。 [Eさん] 計画的に施設の不具合が解消されている。				

1. 段階評価：学校関係者による段階評価も含め、A・B・C・Dの4段階評価
2. 評価基準：[A・・・十分満足できる B・・・概ね満足できる C・・・努力を要する D・・・一層努力を要する]
3. 評価理由は、目標達成に向けた取組の状況や生徒の姿勢の状況などを視点として記述する。